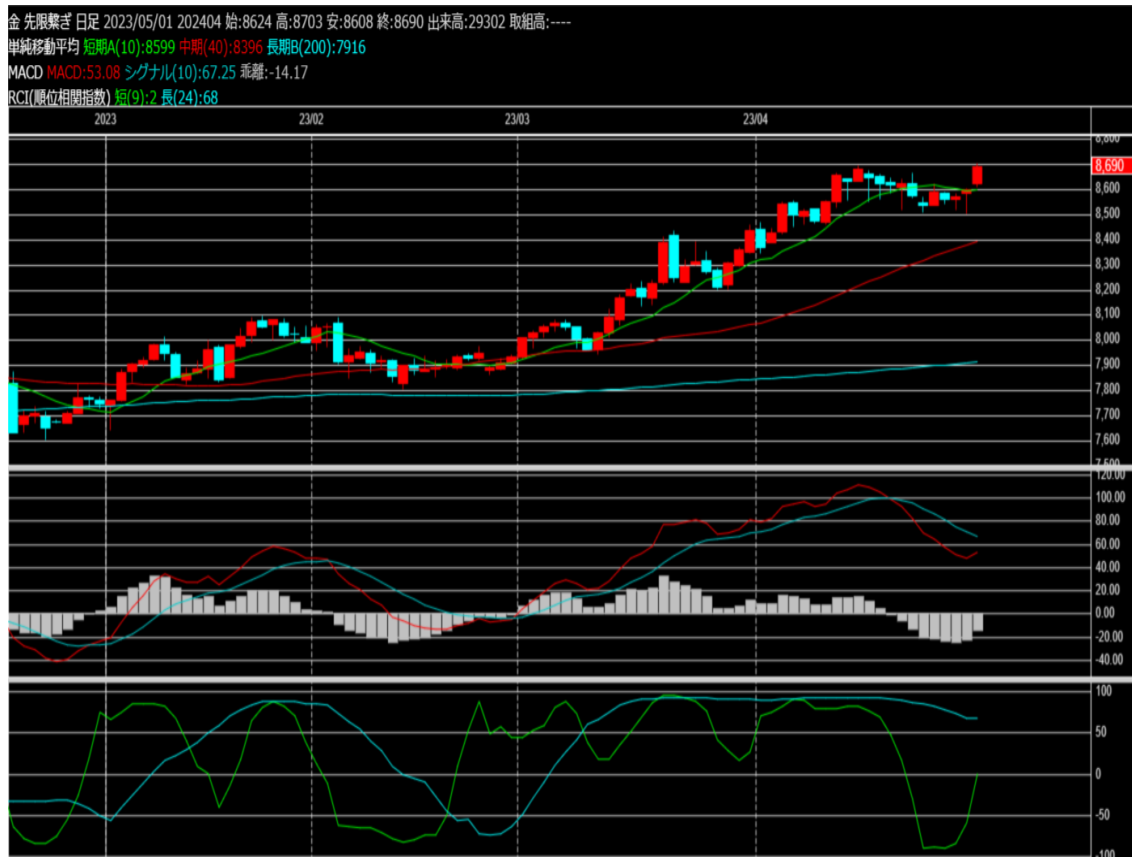


＜金標準先物、何もできない日銀と利上げ確証を得た FRB・・・＞



(出所：オアシス)

米国第1四半期 GDP・速報値では1.1%と前回の2.6%から低下するなど、景気後退懸念を高める結果となった翌日には、日銀金融政策決定会合で現状支持を発表し、またイールド・カーブ・コントロールでは1年から1年半の検証が必要であると示すなど、何もできない日銀をアピールしている。また週末のFRBが重要視するインフレ指標のPCEデフレーターは、前年比で4.6%と高いインフレを維持するなど、5月3日のFOMCにおいて0.25%の利上げの確証を得た状況である。そのため為替市場では、134円から136.50円まで一挙に円安が進む動きを示している。また米国の地銀ファースト・リパブリック・バンクは株価の下落が収まる気配を見せる事無く、米国連邦預金保険公社（FDIC）の管理下に置かれる憶測が流れるなど逃避の動きに金利は低下するなど、ドル建てNY金を支える中で円安が進み、円建ての金標準先物は高値を更新し8703円まで買われている。そのためFOMCまで円安が進む可能性は高く、信用リスクとの重なりを受けて強含みの相場が続くと思える。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDが切り上げだし、シグナルは下げている。またRCIでは短期が上昇し、長期は高い水準を維持するなど強気を維持した動きに思える。特に日足が10日移動平均線を上回るなど、強気を示唆するチャートパターンであり、8600円を下回るまでは弱気は禁物と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,670,000 円(2023 年 5 月 1 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 40,700 円(2023 年 5 月 1 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>